

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style

特別版

2018 08

『Biz Life Style』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都、仙台、福岡、広島、岡山にて68万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社ディリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
©2018 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



ベントレーの100周年を記念する100台限定の特別仕様車Mulsanne W.O. Edition by Mulliner。創業者W.O. ベントレーが最後に手掛けた1930年の名車からインスピレーションを得てデザインされた。

「グランドツアラー」という頂にて。英国ベントレーの100年。

気品以上に注目を浴びた
圧倒的な走りのブランド

イギリスが誇る超高級自動車メーカーであるベントレーが誕生したのは、1919年のこと。創業者のウォルター・オーエン・ベントレー（親しみを込めてW.O.とも呼ばれる）は「良いクルマ、速いクルマ、そしてクラス最高のクルマを作る」ことを目標に、自らの名を冠したブランドを立ち上げたのだ。

初の試作車「EXPER」は、現代の水準から見ても先進的なものだったと云う。すでに各地のモーターサイクルイベントで勇名を馳せていたW.O.は、3年目に2台目の試作車を引上げて英国内の自動車イベントに参戦し、即座に頂点に立つ。翌年にはアメリカのインディ500にも出場するが、特にストレイトでの速さは圧倒的で、新大陸でもあつげなくポティウムの頂へ。1923年に初開催されたルマン24時間レースでは、参戦翌年からの7年間で実に5勝という常勝ぶりで伝説となる。

今でこそ「麗しのハイエンドサルーン」を連想する人が多いが、ベントレーはもともと走りでの注目を浴びたブランド。その遺伝子は今も健在で、パフォーマンスが高くクオリティに優れた「グランドツアラー」という表現が相応しい。高速走行を得意とするスポーツカー並みのパワーを持つが、長距離走行では優雅で気品ある走行感を同時に実現。背筋を貫くように響くエンジンと、しなやかな乗り味をもたらすサスペンションや優れた

た静粛性などを両立するのが「ベントレー」なのだ。

自他ともに頂点であることを認める車は、乗員に無粋な揺れを伝えることなど許されない。その優雅な走りを象徴しているのが、豪華を極めたキャビンだ。驚くほど手触りが柔らかいレザー、目をみはるほど美しい年輪が描かれたウッドをはじめとする上質な素材を、熟練の職人たちが丁寧に手づくりすることで完成する、特別なインテリア。ただ贅沢なだけでなく乗る人の心を落ち着かせるような不思議な力を宿している。

全車種が共有する信念のもと
頂点を極め続けた100年

こうした魅力が凝縮されたのが、2ドアクーペの最新グランドツアラー「コンチネンタルGT」だ。しかし、4ドアサルーンの「ミルザンヌ」も、「フライングスパー」も、SUVである「ベントリーガ」であっても、基本となる思想と精神は同じ。ベントレーを名乗る以上は、「グランドツアラー」を源とするコンセプトは共有しているのだ。

揺るぎない信念で独自の車づくりを推進し、「頂点」に立ち続ける同社は、来年、創業100周年を迎える。ショートムービーが公開され、限定車が発表されるなどホットなニュースが続いているが、来年にかけてはさらに話題を振りまいてくれることだろう。そこで今回は、この世界自動車業界の頂点の一角を特集。実際の試乗も含めて、本紙注目の車種をご紹介します。



EXTRAORDINARY EXPERIENCE

2018年7月にベントレー東京 世田谷ショールームが等々力にオープン！
9月1日(土)・2日(日)の週末、ベントレー東京 世田谷ショールームにて特別試乗会を開催！詳しくは次ページから！

My Favorite Life Style



Bentayga V8 エンジン/4.0リッターV8ツインターボ 最高出力/550 PS @6,000rpm 最大トルク/770 Nm @1,960-4,500 rpm 駆動方式/8速オートマチック、フルタイム全輪駆動 全長/5150mm 全幅/1995mm 全高/1755mm 車両重量/2480kg 最高速度/290km/h 0-100 km/h/4.5秒 メーカー希望小売価格/¥19,946,000(税込)



New Continental GT エンジン/6.0リッターW12ツインターボ 最高出力/635PS @6,000rpm 最大トルク/900Nm @1,350-4,500rpm 駆動方式/8速DCT、アクティブノールホイールドライブ 全長/4,880mm 全幅(ミラー閉)/1,965mm 全高/1,405mm 車両重量/2,290kg 最高速度/333km/h 0-100km/h/3.7秒 メーカー希望小売価格/¥73,680,000(税込)

伝統と、革新と。創業100周年を目前に控えた英国「ベントレー」の現在地。

ベントレーの中核車種「コンチネンタルGT」が3代目に生まれ変わった。名実ともに「世界を代表するグランツアラー」の1台といっても過言ではないモデルだが、今回のフルモデルチェンジでは、世界最高峰のラグジュアリーブランドの一角に安住することをよしとせず、伝統を重んじながらも革新を進める姿勢を改めて証明する形となった。

思わぬ絶頂をさらす美しい新型「コンチネンタルGT」の内装

その気概は、3代目コンチネンタルGTのそとから感じることが出来る。まず目に入るのは、やはりリインテリアだ。上質な素材を熟練の職人たちが仕上げる見事な内装はベントレーの象徴のひとつだが、今回はこれまで以上に手の込んだ一匠の技が展開されているので簡単に紹介しよう。

まず注目したいのが「ダイヤモンドナール」 という特殊な機械加工だ。ブルズアイと呼ばれる伝統的なグリルの吹き出し口やセンターコンソール上の大型ダイヤルなどにオンシオン設定されたこの加工法は、大人に相応しい柔和な表情を保ちながら、同時に宝飾品のように華やかな輝きを放つ。その複雑に反射する光には言葉が失うが、それだけではない。操作時の滑り止めとして、境に「3mm」という微細な段差を設けるといふ職人技も、見逃せないポイントのひとつだ。

いかにもベントレーらしい心配りは、さらに細部にまで及ぶ。たとえばドアハンドルは、実際に手が触れる裏側だけに滑り止め加工が施されているから恐れ入る。同社ではこうした目に見えない配慮を「Hidden Details」と呼んでいるが、これこそ本物を知る者だけに許される楽しみだ。

真のマルチユーティリティを実現 ベントレー初のSUV

さて、本紙が推薦したいもうひとつの注目車種は、3年前前に発表されたベントレー初の世界的話題を集めたベントレー初のSUV。ブランドの真髄であるグランツアラーの優雅な走り、SUVの特色である「どこでも行ける性能」は、実は本質的に同じものの敢えて違いを挙げれば、従来のグランツアラーはSUVに備わるオフロードの走破性を有してはいたが、さすがに「どこでも行ける」なかに過ぎないだろう。ベントレーは、前ページで紹介したコンチネンタルGT、あるいはライオングランドというモデルでSUVの存在意義のひとつでもある4WDシステムをすでに装備していたので、SUVを手がけるのは必然だったわけだ。

ベントレーは、ベントレーを作り上げるにあたり、相当な手間をかけたようだ。すでに圧倒的な信頼性を有するプラットフォームに関わらず、灼熱の砂漠から極寒の北極圏にいたるまで、改めてあらゆる条件を想定したテスト走行を繰り返したのだ。その結果、完成したベントレーは、これまでのどんなラグジュアリーカーも持ち得なかったオフロード性能を兼ね備えた真のマルチユーティリティ。ピエール(万能車)へと昇華する。発売と同時に世界中で大ヒットを記録したのも当然だ。

W12エンジンの新しい世界観

そして先述のW12エンジンを換装した「ニューモデル」ベントレー「W12」が追加された。これは決して、W12仕様の廉価版ではない。W12エンジンは、フルシロトルにすれば6000rpmの驚異的なパワーが炸裂するが、普段はあくまでモシメントルに、静々と回る。加速の所作にも、どこか気品が漂う。

伝統を深めつつ革新性も満載 外観のマシツ、そして走り

外観は背が低くなってスポーツカーのようなだが、これはデザイン上のマシツだ。実はタイヤ位置をボディ内側に移動させるなどの工夫でそう見せているだけで、実際の外寸はほぼ変わっていない。つまり、あの驚きのキャビンスペースは健在なのだが、いかに高度な設計が展開されているかがよく分かる事例と言えるだろう。

その一方で大幅に変更されたのが「走り」だ。実際に試乗してみると確かにスポーティなだが、ドライバーが望めばスポーティな走りも楽しめるという「コマンズ」の方針が正確だろう。街乗りではこれまで通り気品ある安定感溢れる走りだが、郊外へ出ると後輪駆動を思わせる軽快な走りへ、また、ハンドリングがシャープに感じるのも特筆点だろう。その気になれば、まるで豹変したようにパワフルなドライブが楽しめるのは、新型の大きな特徴だ。

驚くべきは、こうしたスポーツカー並みのダイナミズムを得ても「ハンドリング」こそ、即ち異次元的な快適性はいささかも損なわれていない点だ。伝統に根ざしながらも、新しい価値観を積極的に採り入れていくこととするベントレーの姿勢は、車体のいたるところにそのまま表れているのだ。



自分で運転してのロングドライブが楽しくなる高級車。グランツアラーと譲れらるゆえんだ。

気づかぬうちにシフトと速度が上がり、それが無段階に続くような自然な感覚が特徴だ。

一方、ベントレー「W12」に試乗して驚いたのがこの加速感の速いこと。軽快で俊敏な走りを感じながら、だから加速を始めるまでに要する時間があるかに短い。それこそ踏んだ瞬間に背中をグッと押されたかのような感覚を楽しむものだ。このV8エンジンは、同グループに属するポルシェと共同開発したもので、このことが、ラグジュアリー感に加えスポーティな世界観をも表現している。

レスポンスのよさはスポーツカークラスだが、乗り味はW12仕様と大きくキャラクターを変えている点も面白いところだ。同じラインでも個性を持たせられているのかと、正直、感嘆させられた。このように走りは大幅に異なるが、ラグジュアリーテイタをほじめる車つくりに関しては、同社の伝統そのもの。美しい仕上がり、のキャブを眺めているだけでも至福のひとときを過ごせるが、走り出した後、常に視界に入ることと、ドライバーの心を和ませる鎮静効果があるのではないかと錯覚するほどのあの美観は健在だ。

「お金には換えられない価値」が存在することを認めずにはいられない英国の誇り、ベントレー。ぜひ試乗会で確認してほしい。



気品のW12に対し、躍動のV8。実際に乗り比べると、その世界観の違いが実感として分かる。



My Favorite Life Style



新型コンチネンタル GT (メーカー希望小売価格) 25,680,000 円

The new Continental GT. Be Extraordinary.

EXTRAORDINARY EXPERIENCE — 新型コンチネンタル GT ならびにベンテイガ V8 試乗会 —

革新的に進化した第3世代の新型コンチネンタル GT の国内仕様試乗車をご用意致しました。その並外れたハンドリングと、驚くほど優雅で贅沢な乗り心地を、いち早くご体感ください。さらに、最先端の V8 エンジンを搭載し、スポーティーな走りと高い洗練性を実現した、新型ベンテイガ V8 の試乗車もご用意しております。

開催日時 9月1日(土)・2日(日)
10:00-18:00
開催会場 ベントレー東京 世田谷ショールーム
TEL: 03-5760-6290
〒158-0082 東京都世田谷区等々力 4-24-17



ビズスタ特典

期間中にご来場の上、ご商談頂いたお客様にベントレーコレクションよりグッズを進呈致します。
※本誌を見た旨をスタッフにお伝えください。賞品が無くなり次第終了とさせていただきます。

BENTLEY TOKYO

「マイ・フライング B」ならベンテイガ V8 が月々 84,800 円*



*お支払い例: Bentayga V8 車両本体価格19,946,000円、頭金5,756,000円、所要資金(ローン元金)14,190,000円、特別低金利1.98%(実質年率)、3年でのお支払いの場合、初回のお支払い額85,300円、月々のお支払い額84,800円×34回、最終回のお支払い額12,000,000円、金利手数料778,500円、お支払い総額(含む頭金)20,724,500円 *ローン提供会社:ベントレー・ファイナンシャル・サービス。*ローン対象金額とは、ご購入価格から頭金を差し引いた金額です。*当お支払い例はあくまでご参考金額です。*「マイ・フライング B」は、残価設定型ローンであり、据置価格での車両買取を保障するものではありません。契約終了時には一括でのご精算または再分割によりお車に乗り続けて頂くか、下取額でご精算の上新しいお車に交換頂くことが可能です。詳しくはベントレー正規販売店にお問い合わせください。*上記の適用金利(実質年率)は予告なく変更される場合がございます。特別低金利適用はキャンペーン実施期間中(2018年7月1日~9月30日)にご成約、およびローン契約がなされ、2018年12月末日までに新規登録がなされた車両が対象となります。*取扱い上限金額は、車両本体価格+オプション価格+諸費用となります。表示価格は2018年モデルの2018年8月1日現在の消費税込メーカー希望小売価格(参考価格)です。オプション費用、保険料、税金(消費税を除く)及び登録等に伴う諸費用は含まれておりません。販売価格は正規販売店が独自に定めておりますので、お問い合わせ下さい。使用した写真は細部で日本仕様と異なる場合があります。「Bentley」の名称、「フライング B」およびその他あらゆるモデル名は登録商標です。© 2018 Bentley Motors Limited.